

検討項目	委員意見	対応		スケジュール	
		反映の有無	対応方針	第5回委員会	今後
戦略のねらいと位置づけ (「1.生物多様性とは」)について 【資料3-1】	<p>資料3-1の「(1)生物多様性とは」の冒頭の記載について、「生物多様性とは、生き物たちの豊かな個性とつながりを意味します」で良いのか。生物多様性基本法などで定義されている言葉を用いた方が良いのではないかと。(藤委員)</p> <p>生物多様性基本法で定義している3つの多様性は、普遍的な定義を示しているというのではなく政策的な意図を持って示されているものであるため、ここで引用するのが適切とは必ずしも言えない。この部分では、市民に理解してもらうことが大切であり、冒頭から、生態系の多様性、種の多様性、遺伝子の多様性などと説明しても混乱してしまう。「豊かな個性とつながり」は情緒的表現であるし、また、人間を中心に生き物の個性との繋がりを考えると捉えられてしまうと、必ずしも正しくはない。(浅野委員長)</p> <p>冒頭の文章については、「生物多様性とは、…とつながりを意味します」ではなく、「生物多様性を考えると、…とつながりを考えること」と修正する。(浅野委員長)</p>	反映	浅野委員長から頂いたご意見を踏まえ、「生物多様性とは、…とつながりを意味します」ではなく、「生物多様性を考えると、…とつながりを考えること」と修正する。また、その修正に合わせて文章を再構成する。	→	
福岡市が目指すべき姿について 【資料3-2】	<p>6行で示されている理念について、後半の2行が、全体目標の内容を重複する部分があるため削除し、前半の4行の部分を膨らませる方が良いのではないかと。「まちが成長していける福岡市を目指すことを本戦略の理念とします」の箇所については、目標を目指すことが理念という言い方になっており、これを理念とは言えないのではないかと。(今田委員)</p> <p>前半4行は、現状を示しているもので、何をめざすかという先の話を書き加えないと、目指す方向としての理念にならないのではないかと。そのため、後半2行については、目指すことを理念とするという表現を改めて、そうした視点を加えると良いのではないかと考える。(志賀委員)</p> <p>真に理念として書かなければならないことを問うているのであれば、生物多様性を保全しなくてはならないという点において、理念というのは地域によってそんなに変わるようなものではなく、地球全体で共通するものではないかと。そうであれば、環境省の示している理念などを示してしまう方が、適切なのかもしれない。人間中心の発想で考えるのか、そこから離れて広く考えるのかといったスタンスは、きちんと決める必要があるものの、国家戦略でもその姿勢は定まっていないう状況にある。(浅野委員長)</p> <p>理念については広義のものがあって、それに対応する福岡市の目標があるというのがわかり易いのではないかと。(服部委員)</p> <p>理念については、条約などから引用し、理念の前半4行を目標の前文とする。(浅野委員長)</p> <p>恩恵を受けてきたという記述はあるが、地域の人たちもそれを適切に維持管理してきたなど働きかけがあったことの記載もあった方が良いのではないかと。適切に支えてきたという意味合いを加えるとわかりやすいと思う。(小野委員)</p> <p>小野委員の発言にあったように、人間の側も役割を果たしてきたという主旨の言葉が入ると良いが、考えられる中では「共生」という語が適切ではないかと考える。(佐々木委員)</p> <p>理念については、地域にとらわれずに通用する抽象化されたものとし、目標において地域性を出すようにする。(浅野委員長)</p>	反映	浅野委員長から頂いたご意見を踏まえ、「理念」については地域にとらわれずに通用する抽象化されたものとし、国家戦略の理念を引用することとする。また同様に、「全体目標」については、理念の前半4行を目標の前文とするとともに「共生」という考え方を入れる。また、提案の通り目標については地域性のある表現とする。	→	
	地域別目標	<p>「(1)全体目標」に、「自然と自然界の多様な生き物」という記載があるが、自然には自然界の多様な生き物が含まれているため、「多様な生き物を含む自然」とした方が良いのではないかと。2行目でも「自然と共生し…」とあり、「自然」という言葉が、比較的広い意味で使われているということからも、それに合わせた方が良いのではないかと。(今田委員)</p> <p>「自然」には生き物を含むイメージはあるが、「場」というイメージはない。また、「自然界」という表現にあまり馴染みがないようにも思う。(佐々木委員)</p> <p>単に「自然」で括ってしまうと本来の意味が伝わらないため、やはり「多様な生き物」という言葉を入れる必要があるのではないかと考える。(森委員)</p> <p>書き込みをする上では、このように区分せざるを得ないと思うが、河川と沿岸などつながりのある部分については、まとめて記載したり、それぞれに関連する記載をした方が良いのではないかと。(森委員)</p> <p>福岡の場合には河口域の干潟は埋め立てでなくなってしまうが、干潟は基本的に川がつくるものだという認識が不足しているように感じる。博多湾の砂は、かつて川から流れてきているものであり、河川と海とのつながりがあることを触れる方が良い。(服部委員)</p> <p>「③沿岸部(自然的地域)」の現状で、干潟や砂浜などの減少の要因として、「博多湾内の埋め立てが進んだ結果」とのみ記載されているが、長年にわたる都市開発や都市下水道の整備による河川流量の減少や土砂や栄養塩類の供給の減少などの要因も追記する。(浅野委員長)</p> <p>「⑧河川部」にも、干潟との関係性を追記した方が良いという意見があったため、現状の2行目で「複数の環境を行き来する生物にとって大きな減少要因となるなど」と記載されている部分に、生物にとってだけでなく、干潟にとっても大きな減少要因である旨を追記する。(浅野委員長)</p>	反映	浅野委員長から頂いたご意見を踏まえ、「③沿岸部(自然的地域)」の現状で、干潟や砂浜などの減少の要因として、「博多湾内の埋め立てが進んだ結果」のほかに、「長年にわたる都市開発や都市下水道の整備による河川流量の減少や土砂や栄養塩類の供給の減少」などの要因も追記する。また、「⑧河川部」の2行目で「複数の環境を行き来する生物にとって大きな減少要因となるなど」と記載されている部分に、生物にとってもだけでなく、干潟にとっても大きな減少要因である旨を追記する。	→

検討項目	委員意見	対応		スケジュール	
		反映の有無	対応方針	第5回委員会	今後
福岡市が目指すべき姿について【資料3-2】	「⑦山地丘陵部」という名称はどこからきているのか。一般には山地と丘陵地は分けており、「山地・丘陵部」であればわかる。(薛委員)	検討中	地域特性区分については、区分の大枠は変更しないものとする。名称変更については、第5回委員会で具体的な提案があり、承認されれば変更するものとする。	→	
	福岡市の場合、山地としてしまうと違和感があるほか、山頂に原生林のある三日月山も丘陵部とするには違和感があるなど区分が難しい。山地で切ってしまうのではなく、続いているということを言いたい。また、市街地の中にも丘陵があるため丘陵地のみで表現するのも相応しくないという面がある。例えば「山地山稜部」と言った方が適しているか。(浅野委員長)				
	「低山帯」と言った方がわかり易いようにも思う。(森委員)				
	地域特性区分の「①海洋域」という大枠の区分が設けられているが、その要素の一部である「島しょ部」や「沿海部」というのが別にあるのが分かりづらいのではないかと。これに変わる名称について考えてみたいので、少し時間をもらいたい。(川口委員)				
	この地域特性区分については、きっちりとは区分できないということは認識しつつ区分している。当初は海洋を区分に設けていなかったが、小呂島をはじめとした島しょ部を設けるのであれば、当然、その間の海域も対象とすべきとして、「海洋域」を設けたものである。(浅野委員長)				
	地域特性区分について、「⑥内陸部(里地里山・田園地域)」であるならば、⑦の山地丘陵部も「内陸部(山地丘陵部)」にした方が良いのではないかと。内陸部というと、山地部を含めた陸域を思い描いてしまうため、「里地里山・田園地域」の方が範囲をイメージし易いと考えます。(薛委員)				
	福岡市の場合、かなり住宅地と混在しており、「里地里山・田園地域」とは言い切れない面がある。実態に即して極端に言えば、この区分も「里地里山・田園・住宅地域」ということになってしまう。どちらにしても、適切でないというご意見があれば、意見を踏まえて事務局で再考してほしい。(浅野委員長)				
	河川部について、今後の対策に結び付けていくという観点から、希少種が多く生息する汽水域について触れる必要はないのか。環境省のレッドリストでは、前回から河口域等の汽水域の貝類・甲殻類も新たに評価している。現在、県のレッドリストも整理しており、福岡市内の汽水域でも絶滅のおそれのある種に入るものがあるのではないかと。(森委員)	反映	意見を踏まえ、「③沿海部(自然的地域)」に、汽水域の記述を追加する。	→	
	瑞梅寺川、多々良川の河口あたりで、本来、葦原や干潟があるのが汽水域の姿であるが、福岡市の場合はそうした環境がなくなっているのが現状である。大雨が降って、堰が開いた時は潮が上がるが、通常は遡上しない。汽水域の生き物は辛うじて残っているが、汽水域の体を成しているかと問われれば厳しい状況である。逆に言えば、汽水域的な環境を残している場所は非常に重要であると言える。(服部委員)	反映	意見を踏まえ、地図のイラストを修正する。(なお、意見にはなかったが、アイランドシティも追加する)	→	
	汽水域があるのであれば、具体的な場所も明記した上で追記すること。(浅野委員長)	反映	意見を踏まえ、地図のイラストを修正する。(なお、意見にはなかったが、アイランドシティも追加する)	→	
地域特性区分の地図については、良く描けてはいるものの、市域で絵が切れてしまっており、図会に描かれる鳥瞰図のように周辺も描いて広がりを持たせた方が、ここで示そうとする内容に合う。(浅野委員長)	反映	意見を踏まえ、地図のイラストを修正する。(なお、意見にはなかったが、アイランドシティも追加する)	→		
地域特性区分の絵は非常にキャッチーで良いと思うが、干潟も加えられると良いと考える。また、人口減少の結果コンパクトになった都市部が描かれていて、特別緑地保全地区や緑の廊下などの意義が感じられないほどに緑いっばいである。もう少し干潟の部分と都市の部分を書き込んだ方が良いと考える。(志賀委員)	反映	意見を踏まえ、地図のイラストを修正する。(なお、意見にはなかったが、アイランドシティも追加する)	→		
「(2)地域別目標」の構成に「解説」というのがあるが、記載されている内容が「目標とする姿」と、ほぼオーバーラップするが、必要なのか。(川口委員)	反映	解説については残すものとするが、内容には地名などを加え具体化を行う。	→		
一般市民やNGOの方々だけでなく行政の担当者にも読んでもらう必要があり、行政計画としては、詳しい記載がなされていることで様々な部分で歯止めになるというのが併記の意図で、この部分を削除すべきではないというのが委員長としての意見である。(浅野委員長)					
解説については、現状があり、どういう施策を行うことで、目標とする姿を実現するかということが書かれているものと思い、良い構成と考えたが違うのか。(薛委員)					
基本的方向	「3.戦略の基本的方向」に示されている④番に「地産池消によるフードマイレージの最小化」とあるが、「フードマイレージ」という用語は一般的か。(佐々木委員)	反映	意見を踏まえ、市民にもわかり易い表現に修正する。	→	
	「3.戦略の基本的方向」に示されている⑨番に「世界に開かれる日本の玄関口として」とあるが、「世界」ではなく「アジア」くらいが妥当ではないか。(佐々木委員)	反映	意見の通り修正する。	→	
	「3.戦略の基本的方向」の基本的方向3「市域外地域から享受される生物多様性の恵み」という表現が、日本語の文章的におかしいと思うので修正した方が良い。「もたらされる」と言った表現の方が良いのではないかと。(薛委員)	反映	意見の通り修正する。	→	

検討項目	委員意見	対応		スケジュール		
		反映の有無	対応方針	第5回委員会	今後	
行動計画及び行動計画の効果的推進について【資料3-3】	行動計画	検討中	意見を踏まえ、行動計画全体の枠組みから再考し、市民、事業者、NPO等活動団体については、「指針」ではなく主体ごとに期待される役割と取り組み例などを示しつつ、連携方策を明示することとする。進行管理についても、具体的な評価等の仕組みとして、市独自の生物多様性指標の検討などを盛り込んだ。	→		
						行政の行動計画は、自らの行動であるため問題ないと思うが、事業者やNPOについては、指針になっており、これを以て行動計画とすることは出来ない。行動計画をどのような形で打出していくべきなのか、また、推進体制がこのような単純な形で切り分けられるものであろうかと考える。行政の命令に従って事業者やNPOが動かなければいけないわけではない。形としては、行政は「こういうことをやる」ということを示すとともに、多様な主体とどのようにパートナーシップを構築しつつ、それぞれの立場のどのような取り組みを促していくかを示すべきで、資料3-3で示されている内容では全体の仕切り方が良くない。(浅野委員長)
						市民については、若干抽象的な表現になっており、何をしたいのか分からない部分もあるが、何とか形にはなっていると考える。事業者については、生物多様性との関わりを把握するということが、生物多様性への影響の低減や持続可能な利用について示されているが、内容が乏しい面もある。但し、アンケート結果から実際に行われている具体的な取り組みを掲載することで内容を補完している。NPO等活動団体の記載内容については、生き物系のNPOには今更感がある一方、それ以外のNPOには理解するのが難しいものになっているように感じる。(浅野委員長)
						地域と連携した取り組みを進めるため、地域のお宝を整理し、地域向けの観察会を開き、地域向けの資料を作っており、「この地域は他の地域と違うとともに、博多湾としてつながっている」という意識付けを行うことから生物多様性を広めようと考えているが、行政からの要望が大き過ぎる様に感じる。ここに書かれている内容は、もっとやってくれと要求されているようにしか読めない。(服部委員)
						NPOには非常に熱心な方々があり、率先して活動しており、果たして指針というものが必要なかとは思ふ。1つ1つの文章は良いが、それを行政が指針として示すのに違和感がある。行政の立場からは「連携」という視点の方が大事ではないか。(森委員)
						NPOや事業者などは、独自に計画や指針を作っていくのが理想と考える。(今田委員)
						「こういうNPOを支援していきたい」というのであれば、納得できるのではないかと。(志賀委員)
						「(3)NPO等活動団体の行動指針」「①地域の生物多様性の保全のための活動のけん引役になろう」の最後の1文に「市民の自助を基調とした…」とあるが、ボランティアグループとNPOと一緒にしない方が良い。非営利ではあるが事業者である。(志賀委員)
						地域連携による保全活動計画の作成や連携した保全活動を進めるための生物多様性保全活動促進法が昨年12月に成立しているが、可能な限りこの制度の活用について言及してほしい。(志賀委員)
						NPOに求められていることとして、市民がやるべきことと行政がやるべきことの間領域を埋める役割が大きいと考える。そうした役割について記載すると良いのではないかと考える。(小野委員)
NPOにも様々なNPOがあり、中には思い入れが思い込みになってしまっているようなNPOも見られるため、正しいデータ・正しい情報の発信という言葉を入れておくと良い。(小野委員)						
NPOの方々もそれぞれのフィールドで活動し、発信をしているが、福岡市でまとめてはいない。地域の宝探しを集約し、福岡市全体の宝とするような入れ物、いわゆるアーカイブ機能とラボ機能を援助しつつ、情報発信を手伝うことが、行政が担うべきことであるとする。(佐々木委員)						
この点については、むしろ『行動計画の効果的推進』で補足する方が良いのではないかと考える。「(1)庁内推進体制」の中にも、市民、NPO、事業者、大学など多様な主体との連携といった記載が見られるが、こうしたところで、それぞれの役割を具体的に記載していった方が良いのではないかと。(薛委員)						
「2.進行管理」の中の点検について、この行動計画の点検をどのように行うのかが見えない部分があるため、10年後の点検がスムーズに行われるよう具体的に記載し、実効性の高い進行管理にしてほしい。(今田委員)						
市民アンケートの結果について		反映	戦略の基本的方向の中で、生物多様性の概念や重要性については、「認識」させる方向を示すとともに、行動計画においても従来の普及啓発関連の取り組みを施策として多数取り上げた。また、これまで行われていない「大学教育における環境教育プログラムの導入・充実」についても新たに追加し、「生物多様性」の概念の普及啓発に努める内容とした。	→		
						一般の意識調査と捉えるのか、有識調査と捉えるのか、見解は分かれるところではあると考えるが、いずれにしても施策を検討する上では、参考になる結果と考える。(浅野委員長)
	「多様性」というものがあまり理解されていないため、概念を浸透させる必要がある。もっと身近な所で多様性を感じる感性が、子どもよりもむしろ大人に必要なと感じる。(浅野委員長)					
第1回、第2回、第3回からの継続項目						
現状と課題		検討中	環境活動を行っている市民団体や農林業従事者の意見については、NPO団体に対して既にアンケートを実施しているほか、市民や事業者に対してのアンケートも予定している。今後、それらの結果を整理し、市民の声として盛り込みたいと考えている。	→		
						現状と課題については、戦略づくりを進めながら、フィードバックし、修正を加えていく必要があると思う。(浅野委員長)
		今後随時反映	委員意見を踏まえ、戦略づくりの中で必要に応じて加筆・修正を行っていくものとする。	→		

検討項目	委員意見	対応		スケジュール	
		反映の有無	対応方針	第5回委員会	今後
他地域との連携	県や国の関連計画や観光分野、アジア圏などの広域的な動きの把握や連携も必要ではないのか。(今田委員)	検討中	福岡市の関係している広域連携については、既に一部把握しているが、今後も把握を進める。	→	→
	・市域内あるいは福岡都市圏で自己完結するのではなく、他の圏域との連携を重視したほうが良いと感じている。(浅野委員)	検討中	行動計画、推進体制の検討に際して、他地域との連携を視野に入れた計画を検討。 (具体的にどの程度まで踏み込むか、要協議。)	→	
	・野鳥の生息環境に関して、福岡市は、繁殖地、越冬地、中継地などの評価すべきファクターがあり、市域に限定した生態系の評価は難しい。この点においても、福岡市外を含めた他地域と連携する視点が大切ではないだろうか。(小野委員)				
	・他地域との連携の視点をもつことが重要だと思う。特に、哺乳類の場合には、個体数の増減を広域で捉えた方がよい。(荒井委員)				